

還暦記念 四国八十八ヵ所遍路の旅の記録

第九代・清水茂久



【第3弾・平成18年6月2日発】

遍路日記（土佐：修行の道場から 伊予：菩提の道場へ）

1. 出発まで

前回（2006年3月・3日間）の遍路第2弾は、自分の過信により見事失敗に終わった。

その後、足の具合も4月一杯は良いとはいえなかった。それでも5月になると順調に回復して来たようで、定年後のステップ・アップ休暇を使つての実施となった。

還暦（5月8日）と定年（5月30日）の区切りのイベントなどもあり、いろいろ忙しい日々も続いていた。

今回の予定は、前回の残りの距離をそれ以上の日数をかけて、同じ過ちを繰り返さないことを第一に、そして時期的に梅雨（雨と暑さ対策）も考慮して綿密に立ててみる。

出発当日、午後から準備を始める。昨晚は小物を整理し、遍路も3回目となるとそれ程時間もかからない。夕方6時に家を出て、スムーズに新宿に着く（19:10）。

新宿に着いてから弟に電話をするも、既に帰宅途中で会うことが出来なかった。小田急ハルク前のバス停を確認し、蕎麦屋で腹ごしらえをする。

定刻（20:00）に来た2号車のバスは半数くらいの乗客ですいている。都心を出て一眠りすると、すぐに富士川SAに着き（21:50-22:05）、その後は朝まで良く眠ったようだ。

小田急バスはJRバスと違って、徳島に寄らず高知に直行するので、朝は起こされずに済む。

2. 第1日目＝6月3日【土】 晴れ 歩行距離＝22.1km

バスは、定刻の20分前(7:20)に高知駅に着き、各駅列車を確認するも、中村の手前迄しか行かないことが分かり、特急しまんと1号(8:18発)を待つ。

前回と同じレストランで軽く朝食をとる。特急は自由席も空いていて、ゆっくりと車窓の風景を楽しむ。懐かしい須崎の街や道、前回急いで歩いた道などを見ながら……

10時に中村に着き、身支度を整えて歩き出す(10:10)。足が痛くなりませんようにと、祈りながら。それでも今日は20*と距離が短いのでゆっくりと歩く。

しかし、遠景は霞んでいるが空は青く日差しが強い。シャツを着たまま四万十川の左岸の堤防の上を歩いていると、のんびりして気持ちが良いが、30分もすると汗が流れ出し、Tシャツ1枚になって歩く。

取り合えず、3月にリタイアした民宿月白(10:40-45)に挨拶をし、リスタートとする。民宿のおばさんはビックリして懐かしい顔を覚えていてくれた。

改めてその時のお礼を言うと、缶コーヒーを下さり、手を振って見送ってくれる。

そこから四万十大橋を渡り、右岸に沿って河口に向かう。日本の原風景といわれる四万十川はもっと上流の風景になるのか、このあたりでは大河の風にしか見えない。

四万十川から分かれるとすぐにうどん屋(田子作)があり、四万十の海苔がたっぷり入ったうどんを食べる(12:10-30)。

国道が登りになり、1,620mの長い新伊豆田トンネルを抜けると市野瀬に出る。江戸時代に信念が遍路のために開いたお堂の跡をたどる。

そこから美しい溪流の下ノ加江川に沿って約8kmを下る。子供が川遊びをしていて、川に飛び込みたくなるような、暑さである。下ノ加江から侵食された波の高い海岸線を歩く。

全身汗みどろの感じで、有名な民宿久百々に着く(16:20)。噂にたがわぬ、居心地の良い宿である。この日は、兵庫県川西市の早期退職された浜上氏と二人だけの宿泊である。

浜上氏は今日は足摺岬から戻り、通し打ちで26日目との事であった(後半再び会うが)。

この先、天候は安定しているようで心強い。



3. 第2日目＝6月4日【日】 晴れ 歩行距離＝32.8km

今日は待望の足摺岬の先端にある、38番札所金剛福寺に向かう日である。

朝は快晴で気持ちよく起き、おばさんのボリュウムのある朝食を摂る。そして、出発(6:40)の際には大きなオニギリなどいろいろな食べ物が入ったお接待の包みを頂き、この先コンビニがないため非常に助かる。

国道を南下し、所々にある山道の旧遍路道なども歩く。大岐から海岸の砂浜に下り(7:20-30)、歩にくい砂の上の波打ち際を歩く。

まだ朝早いのに多くのサーファーが、波乗りを楽しんでいる。そこからすぐに今夜の宿「星空」のある以布利に着く(8:15-20)。

ここに半分の荷を預け、宿の親父さんに近道(旧足摺道)を案内してもらう。この足摺道は谷間を登ったり尾根を下ったりの繰り返しで、かなり険しい。

それでも漁港の窪津からはほとんど車道を歩き、多少のアップダウンはあるものの、延々と道は続く。帰りは早く感じたが、行きは長い。窪津の手前で東京からの通し打ちの若者と出会い、足摺岬まで話しながら一緒に歩く。

岬に近づくと、南国の植物の中を進む。やっと5時間かかって第38番札所金剛福寺(こんごうふくじ 11:40-13:10)に着く。

岬の先端から少し入ったところに大きな屋根が見え、『なんと遠くまで、はるばる来たものだ』と感慨深い。なにか室戸岬と似ているようで最御崎寺の時を思い出した。納経の時、歩き遍路にだけお茶のバックの接待があった。

今日は日曜日で観光客や車遍路もボチボチ見える。展望台ではるかに続く太平洋の大きな海と、こじんまりした灯台を眺め、記念撮影をする。

展望台の入り口に戻ると、若者がタクシーの老運転手にコーヒーを接待したいと言われ、二人でその前のレストランでわかめうどんをご馳走になる。



帰路は気持ちが落ち着いているのか、往きと較べて非常に早く進む感じである。途中たぬきという簡易店舗でおいしいコーヒーを飲む(13:55 - 14:20)。

その場で豆を炒ってから淹れたコーヒーを飲んだのは、初めてである。窪津を通過し、順調に進んだが、最後がまた苦しい歩きとなる。樹林の中をアップダウンが激しく、全身汗まみれで、重い足を引き摺りながら歩く。

民宿星空に着いて(16:50)、すぐに風呂に入る。ここでは親父さんが洗濯の接待をしてくれ、また豪華な海の幸がたっぷりの夕食で感激の充分満足した一夜であった。

明日は予定を少し延ばし、39番札所の延光寺まで行くつもりで、その手前の宿に予約を入れる。また数あるコースの内、距離が少し長い21号線のコースに決める。



4. 第3日目＝6月5日【月】 晴れ 歩行距離＝39.9km

今日も高曇りで夜が明け、少し寝坊をしてしまったが、約40kmのロングコースのため急いで出発する(5:45発)。朝食の代わりにお握りを作ってもらったが、お接待で昼食も含めて大きいお握りが6個も入っていたのには驚いた。

昨日通った大岐海岸は車道を大きく迂回して通ったため、少し時間をロスしてしまった。民宿久百々(7:30)に挨拶をし、先を急ぐ。

一心庵(8:20-25)から五味橋(9:00-05)まで田んぼの中の道を進む。ここから長い長い下ノ加江川に沿っての上りが始まる。

大きく何回も蛇行しながらのゆるやかな歩きやすい道である。しかし次第に天気が良くなり日差しが強くなると、全身から汗が流れ出る。

道の日陰の部分を探求めて歩くが、それでも蒸し暑さは増してくる。やっと三原村の入り口(竹内商店前 12:30-13:05)に着いたが、ここまで13.4kmに3時間半も掛ってしまった。

ここで昼食のオニギリを2個食べ、ポカリを0.5ℓ以上飲んだが、まだのどが渇いている。

ここからがまた長い行程であった。谷間を大きく回り、村役場の前を通り、信念庵からの道と合流する(14:00-10)。丁度その道を歩いてくる遍路さんが見えた。

待って挨拶すると、ベトナムに在住している50代の日本人の方で青森の弟さんが住職をされており、最近ベトナムに真言宗の寺を建てたが住職がいないので、自分がそのために修行をし、住職になるのだと言う。ここまで20日余り野宿で托鉢をしながらの修業だと言う、立派な方であった。

15分くらい一緒に歩いたが荷の重さも違うため、私は先を急ぐ。山間に大きなダムがあり、公園になっている。いつ見ても四国の川の水はきれいだ。その脇の新しい道を一気に下る。

足も痛くなる頃、平田の街に入る。下校してきた小学生が元気に挨拶してくれるので、気合を入れ直して歩く。国道に出てから、次の札所迄はまだ2.4kmもあり、今日の約40kmの最後はさすがに辛い。

民宿嶋屋(16:40-45)に荷を預けて、第39番札所延光寺(えんこうじ 16:50-17:10)では納経を先に済ませ、ゆっくりと読経をする。この時期は車で回っている夫婦の方が多い。

しかしそういう方は全く話もしないで、さっさと次の札所に向かってしまう。浦島太郎の伝説の海亀の像がある寺で、夕方の静かな木立に囲まれた、こじんまりとした寺であった。

約300m戻ると宿があり(17:15着)、あまり綺麗でなかったが、おばあさんが親切にもてなしてくれ、夕食もボリュームたっぷりであった。その晩は歩き遍路の男性2名と一緒にであった。

和歌山の若い人は靴擦れで、足の裏に3×5cmくらいの皮が剥がれ、明日は帰宅すると嘆いていた。ひと時、靴と靴下の話題で盛り上がった。

夕方は涼しい風が吹いていたが、今日の暑さで顔面がほてって何時までも熱く、寝苦しかった。明日は予定の距離を更に約10キロ先に伸ばして、旭屋旅館に予約を入れる。峠越えの35kmを歩くことになる。



5. 第4日目＝6月6日【火】 曇り 歩行距離＝26.0km

涼しい朝で目が覚める。6時55分に宿を出て、国道56号線を宿毛市内に向かう。すれ違ったり、追い抜いていく自転車通学の学生が多く、皆急いでいる。

松田川を渡ると市内に入り、歴史上の有名な人の史跡に多く出会う（吉田茂・林有造・竹内…など）。

商店街を抜け、再び56号を渡ると松尾峠への入口に出る（9:00-10）。そこへ自転車に乗った地元の人が来たので、峠まで両方向に矢印があるがどちらが良いのかを尋ねる。

教えられた道は、どうも地図より山の上のほうを巻いているようである。それでもしっかりと表示がしてあり、道も歩きやすいので、アップダウンを繰り返しながらそのまま進む。山の中からみかん畑や田んぼのある小さな錦・小深浦の集落を通過する。

大深浦の集落は、昔の土佐と伊予の交易道の関所が在った所だ。ここで休んでいると（9:55-10:05）、一昨日足摺岬で一緒に歩いた東京の宮本氏がやって来た。

岬を竜串方面の西回りで山を越えて、昨夜は私の隣の民宿に泊まったとのことで、ビックリする。彼は26歳で若く、一緒に松尾峠に登り始めるが、全くペースが合わない。彼はすぐに私に先行するので、私も意地でしばらくペースを上げるが、やはり無理であった。傾斜がきつくなると全くペースダウンし、立ったまま息を整える。

やっとの思いで、土佐と伊予の県境松尾峠に立つことができた（10:50-11:05）。

しかし、そこには彼の姿は全く無く、彼の写真も撮れずに残念であった。周りを大きな木に囲まれ景色は全く見えない。『右土佐・左伊予』の大きな石碑があり、松尾大師跡の静かな峠でしばらく昔を偲ぶ。

また、長大な距離を歩いた土佐の国を振り返り、いよいよ伊予の国に入った喜びを感じた。

そこからゆるやかな尾根を下り、林道に出る。田んぼの中の道から沢沿いを旧一本松町に入る。昔のままの村の風景を残した中心街を抜けると雑貨屋があり、そこで昼食用に完熟のトマト（5個100円）とカップに入った冷し中華を求める。



一本松から札掛にかけて道は入り組み、沢山の標識が見られた。それに従ってどんどんと下る。

途中の木陰で昼食（12:45-13:20）をとるが、日差しは益々強くなって照り返しも強い。僧都川のほとりに出るとえん堤の上をゆっくりと歩く。

途中で今晚予約した次の札所から約10km先の旭屋をキャンセルし、40番札所の門前の旅館きさらぎに予約をする。これで気も楽になり、休み休み進む。

大きな橋を渡り旧御荘町に入ると、すぐに第40番札所観自在寺（かんじざいじ）の前に出る。町の中に在りながら、静かな境内で2～3人の遍路がいるだけであった（すぐ後に団体さんが来たが）。

全身汗だらけの状態で白衣も着けずにお参りを済ます。

旅館の宿泊は私一人で静かではあったが、洗濯機・乾燥機・クーラーにそれぞれ100円ずつ掛った。明日も晴れて暑くなり山越えもあるが、距離は短いのでゆっくり行こう。

6. 第5日目＝6月7日【水】 晴れ 歩行距離＝24.3km

良く眠ったか解からないうちに、朝方に寒くなり目が覚める。6時15分に朝食をとり、6時40分に宿を出る。今日は、昨日と同様56号線を延々と10^{km}歩いてから山道に入る。

朝のうちは涼しく歩きやすいし、また今日は距離も短いのでゆっくりと歩ける。それでも峠を2つ越えるので油断は禁物である。

旧内海町に入ると海に島々が浮かび、真珠養殖の筏が並んで美しい景色を見せている。柏郵便局でお金を下ろし、小さな食品店でパンと缶コーヒーを買う(9:05-20)。

その店にも美生柑(ミショウカン・伊予柑の一種?)が並んでいた。今まで途中の道沿いに5～6個が100円か200円で沢山置かれてあったが、重くて買えなかった。そんな事を店のおばさんに言うと、裏から1個の美生柑を持って来てくれた。お接待であった。

そこから小さな川に沿ってしばらく進み、民家の庭先から山道に入る。昔の交易路であり、非常にゆるやかに出来ている。

最後まで山の中腹に付けられた木陰の道である。マイペースでゆっくりと登る。

約1時間で、小さなお堂がある、弘法大師が旅人に柳の杖を突くと、清水が湧き出したという柳水大師(やなぎのみずだいし 10:30-35)に着く。その冷たい湧き水でのどを潤し、ボトルの水を入れ替える。また今でもその杖から根を張った柳の木が繁っている。

工事中の林道を横切ると、大して登らずに清水大師(しみずだいし 10:55)に出る。樹林に囲まれた小さなお堂があるだけで、お参りをして通過し、見晴らしの良い場所に上ったところで休む(11:10-30)。

先ほど頂いた御荘柑を食べると水気が多く甘くておいしい。今日は、雲が多くて遠くが霞んで見られなかったが、晴れていれば海と島々の最高の景色が見られたのに残念であった。

そこからの歩きやすい山道の下りは楽だ。膝にも優しいゆるやかな下りでペースも上がる。下り切った所の東屋で菓子パンを食べ昼食をとる(12:05-15)。

その後、蜜柑を栽培しているビニールハウスで作業中のおばさんに呼び止められオレンジジュースの接待を受け、しばしお話をする。宇和島市内からここに作業に来ていたのことで、冬になったら〇宇印の蜜柑を買うようにしよう！



それでも、谷あいの最奥の集落に入ると林道になり、すぐにペースダウンする。やはり20^{km}以上歩いた後の車道歩きはきつい。丁度気温も最高になっている頃である。

それでも気を取り直し芳原川の清流を眺めながら先へと進む。どうしても一休みが多くなり、その度に水分補給する。この歩きが結構きついですが、ゆっくりでも歩いていれば前に進み、津島大橋を渡ると、岩松川の両岸に意外と大きな町の津島に着く。

すぐに宿のよしのや旅館(14:40 着)は見つかり、昔からの古い造りの宿である。1階の喫茶店でおいしく冷たいコーヒーを飲み、3時過ぎには風呂に入り、ゆっくりとくつろぐ。

明日はいよいよ宇和島を通り山越えもあるが、天気は下り坂で今回初めての雨になりそうだ。

7. 第6日目＝6月8日【木】 曇りのち雨 歩行距離＝36.0km

昨夜は一人だけの宿泊となった。朝も少々遅い出発(6:50)となったが、涼しいうちに歩き出す。

国道56号線を進み、途中から車の少ない旧国道に入る。旧松尾トンネルまで、ゆるやかだが結構きつい登りである。それでも気温は高くないので助かった。

歩道の狭い長いトンネルを抜け、新道と合流すると、だらだらと下り宇和島に近づく。すると9時過ぎに突然激しい雨に見舞われる。

コンビニの軒下でズボンを履き替え、雨具を着ける(9:10-40)。すぐに雨は止んだものの蒸し暑さが残り、宇和島城のすぐ近くの喫茶店に入り、アイスコーヒーと共に冷たい水を何倍も飲む(10:50-11:10)。

宇和島城や宇和島市内の見学もしたかったが、先を急ぐのでそのまま素通りする。そんな時、3日前に民宿星空で一緒だった大分氏(65才)が走るように追いつき、話す間もなく追い越して行った。

今日は柏町から柳水・清水大師を越えて来たそうで、本当に歩くのが早い。

北宇和島の先の小さな食堂で、久しぶりのカレーライスを食べる(11:50-12:15)。ボリュームもありおいしかった。その時青木先輩からのメールが入り、『今日の行程を先まで延ばしたらどうか?』との助言があった。

そこで此处まで18*あまり良いペースで来ているので、今夜の宿を民宿とうべ屋から、更に7キロ先の民宿みやこに変更した。そのため龍光寺まで気合を入れて懸命に歩く。JR予讃線と光満川に沿ってゆるい上りが5*以上続き非常にきつい、昨日のような蒸し暑さが無いので助かる。

務田駅の手前から田んぼの中を通り、住宅地に入る。第41番札所龍光寺(りゅうこうじ 13:45-14:10)は高い石段を登った上にあり、お稲荷さんと共存している珍しい寺である。

バスの団体遍路さんが2組に分かれて読経していて、納経には少し待たされた。石段を下ってくると夏みかんの露店が並んでいて、購入を勧められるが『先を急いでいる。』と言うと、大きな美生柑を1つ接待され、近道を教えてくれた。



たいした上りもなく一山越えると国道に出る。再び降りだした雨が激しくなり、その中を急ぎ第42番札所仏木寺(ぶつもくじ 14:55-15:20)に着く。雨で静まり返った、誰もいない境内で読経をし納経を終える。

雨は激しく降り続いていているが、この先峠越えが待っている。今日最後の上りの、歯長峠への急な遍路道をたどり、国道に出て歯長トンネルを抜けると、あとは下りだけとホッとする。

しかし、直線的な下りはすぐに終わり、最後の民宿みやこ迄の道は長かった。雨の中、最後の力を出して歩き続け、やっとの思いで宿に着く(17:30)。

レストランを営業している宿の夕食では、車遍路1組(6名)と日経新聞の記者の方と一緒にあった。宿のオヤジさんを囲んで、取材を兼ねて4月末から通し仕打ちで来ている記者と共に、ビールを飲みながらの活発な意見交換となり、寝るのが遅くなってしまった。

今日も、遍路第1弾で知り合った金川さんや北海道の楠田さんからメールが入り、また同僚の田辺さんから激励の電話も入った。

8. 第7日目＝6月9日【金】 小雨のち晴れ 歩行距離＝29.7km

昨日、青木先輩から『今日は内子の竜王荘まで行くとよい』と教えられ予約をする。少々寝坊をして出発(7:05)が遅れてしまったが、宿の親切なオヤジさんに送られて小雨の中を雨具を着けて出る。

午前中には雨は上がる模様で、涼しい道は助かる。しかし次の札所までは、時折雨も強くなる。

旧道に入り高速道路に沿って田んぼの中の道を進むと、立派な山門の前に出る。石段を上り第43番札所明石寺(あげいしじ 7:50-8:25)の中に入ると、オレンジ色の瓦屋根が輝くような大伽藍が現れる。朝も早く静かな中で、早々と納経をして先を急ぐ。

山門の横の山道を道標に従って進むと、古い町並みを残した卯之町に出る。駅前に来ると、突然に【いよてつ Takashimaya】のショップがありビックリする。9時前だったので中に入ることが出来ずに、写真だけを撮って記念とする。

更に国道を進むと、お饅頭屋さんがあり、2個求めると1個お接待のうえ50円だけの半額で良いと、温かい出来立ての饅頭を歩きながら食べる。

その先に行くと店頭でジャコ天を揚げている店があった。中に入り、それを2枚買い、お接待の冷たい麦茶を飲みながら食べる(10:25-35)。歯ごたえがありおいしい。

そんな事をしながら旧道と国道を交互に歩き、鳥坂峠への道を上って行く。この峠の入り口にも番所があり昔の面影が残っている(11:10-15)。

やはり昔からの道は、上り下りともゆるやかで歩きやすい。峠は展望もなく、石碑や石仏が数個ずつ置かれていて、笹に覆われて寂しい所で早々に通過する(11:50-12:00)。

この頃には雨も上がったものの、蒸し暑さが強くなる。峠道を下り、朽ち掛けた札掛大師堂から国道56号線に出て、その脇道を指示に従い進むも、途中で道が不明になってしまった。

最近出来た高速道路とそれに伴う新しい道に、遍路地図と遍路標識が追いつかない様だ。たいした時間のロスはなかったが、人に聞きながら大洲の町に着く。小さいながらもきりりとそびえる大洲城を橋の上から眺め、写真を撮る。

大洲の古い街並みを走るように先を急ぐ。峠からここまで思った以上に時間がかかり、このままだと宿に着くのは夜になってしまいそうだ。

それでも餃子屋を見つけチャンポンで遅い昼食をとる(14:25-50)。

既に3時近くで、内子まで12*と国道の大きな表示がある。それから、56号線を目散に歩く。途中、弘法大師が橋の下で寝たと言われている十夜ヶ橋(とよがはし)の番外札所永徳寺(15:25-40)で早々と納経をし、内子の町には入らず国道の坂を上り、内子の町を見下ろす台地の上にある竜王荘にやっとの思いで着く(17:30)。

ここは、町営の温泉施設で、大きな自然公園の中にある。ゆっくりと温泉に浸かりながら体の疲れを取る。

この宿で初日の民宿久百々で同宿した通し打ちの浜上氏と一緒にいる。私が1日(足摺岬往復)分早く歩いたことになる。夕食を共にしながら情報交換などをし、宿の支配人から勧められた橋旅館まで明日は一緒に歩こうと、意気投合する。

彼は宇和島城や大洲城などを見学してマイペースで歩いていて、羨ましい限りだ。夜になると、この竜王荘から内子の町の夜景が美しかった。明日からは天気も回復し、暑くなりそうだ。



9. 第8日目＝6月10日【土】 曇りのち晴れ 歩行距離＝22.8km

今日は歩く距離も短いので、比較的ゆっくりと食事をし、涼しい中を浜上氏と共に出発する(7:20)。浜上氏は今日で33日目？で歩き方も歩くペースも余裕が感じられる。

山の上から内子に向かって坂を下り、街に入ると幟の立った有名な内子座の前に出る。

街角の中の大きな明治時代の建物で、朝早いため中を覗くことが出来ずに残念であった。

玄関のポスターの前で写真を撮り、町並み保存地区に入っていく。ここでも蜜蝋で栄えた内子の文化の高さを改めて感じ、二人で感激しながら歩いた。

町のはずれにある道の駅【からり】にて一服し(8:35-9:00)、今夜と明日の宿を予約する。ここから先21kmを肘川に沿って上る。国道はゆるやかな上りで、谷底を歩く感じで、周りの新緑が美しい。長岡山トンネルを過ぎた所にある無料へんろ宿で休んでいると(10:05-15)、東京からの宮本氏が追い付いて来た。

彼は番外まで遠くを回っているのに、やはりまた追いつかれ、追い抜いて行った。26歳だけあり健脚だ。

大瀬の古い町並みも旧道を通って、興味深く眺めながら進む。曾我十郎の首塚入口では100歳近いおじいさんに励まされる。私の1cm位に伸びた髭を見て、素晴らしいと褒めてくれた。

民宿来楽苦を過ぎた所で、河原に下りて昼食をとる(12:30-50)。川面の風が涼しい。

そこから更に進むと、突合に出て吉野川沿いに左に道をとる。薬師堂の前の、土曜日だけ営業している農産物直売所【およりんか】まで来ると、コーヒーのお接待が待っていた(14:45-15:10)。

そら豆があったので自宅届けを依頼する。何しろ新鮮で安い。段ボール箱一杯で2,000円(含送料)を払う。

そこから直に落合トンネルをくぐり、出た所が松山と鵜田峠の分岐・落合である。ここで電話をして待っていると今夜の宿(橘旅館)の女将さんの車が迎えに来た(15:30-35)。

旅館は松山方面に約2キロ先にあり、この分岐まで明朝送り返してくれるという。宿は旧広田町の山間部の中心地にあり、改築されたきれいな旅館であった。

仕出し料理もしているため夕食・朝食とも、食べきれない程のボリュームがあり、充分満足であった。

今日一日それ程暑くはなく、早く着いたためゆっくり体を休められ、昼寝もする。今回の遍路も残り後3日となり、最後まで頑張れそうだ。

明日も浜上氏と一緒に4ヶ所の登りもあるが、頑張っていくつもりだ。



10. 第9日目＝6月11日【日】 曇り 歩行距離＝24.6 km

朝は比較的涼しく明け、雨の心配はないようだ。梅雨の季節で蒸し暑い、雨が降らないので助かる。宿の女将さんに昨日の落合まで送ってもらうと、たったの5分で着いた。

7時にゆっくりと歩き出す。車道をゆるやかに上りながら大きな三島神社前で休み(7:45-55)、林道から山道に入ると、最初の下坂場峠を越える(8:35)。

少し下り、うねった林道の間の近道を上ったりしながら、鵜田(ひわた)峠に着く(10:00)。ここは昔ながらの峠道で道標も立っていて、風情があり浜上氏と写真を取り合う。

そこから一気に下ると久万高原町の街に入る。この先山道に入るので、コンビニに寄り、またその近くの食堂に入る。早めの昼食に親子丼を食べたが、あまり美味しくなかった(11:00-30)。

その先に久万物産館の食堂「みどり」があり、見落とししたのは残念であった。

大宝寺への道は市内から北に寄りすぎて向かったため車道を大回りして歩くことになった。それでもすぐに第44番札所大宝寺(たいほうじ12:00-25)の門前に出て、坂を上り石段を上がると山門に着く。今日は日曜日で車遍路の参拝者など結構賑わっていた。

ここで浜上氏の遍路仲間の札幌からの宮木氏に出会う。早々と納経を済ませ先に向かう。

再び浜上氏と共に、大宝寺の裏山を登り、下ると県道の峠御堂トンネルの脇に出る(13:00-10)。すぐに旧道の河合集落を通り、再び県道を進む。

ふるさと旅行村などを眺めながらかなり歩くと旧遍路道の入口に出る。田の中の畦道や森の中の沢沿いの道もあり、また小さな尾根を何回も越えるなどアップダウンに苦しめられる。

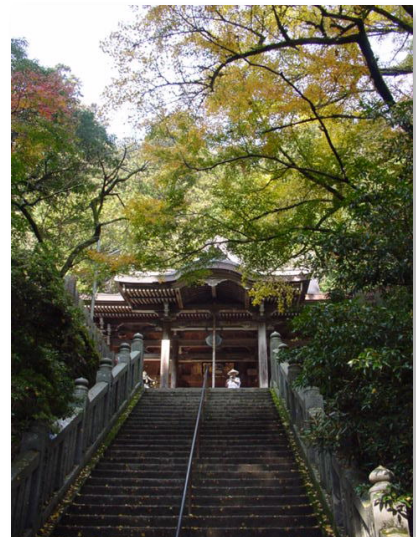
それでも、大汗をかいてやっと八丁坂の分岐に着く(14:30)が、そのまま一気に急な八丁坂を登りつめる。15分で峠に着き、農祖峠からの道と合流する。涼しい風の中で休む(14:45-55)。

峠からはゆるやかな歩きやすい尾根道であったが、約2㎞しかないのに意外と長く、後半はアップダウンの連続であった。

岩屋寺の裏山の上から断崖に挟まれた急な道を回り込んで下ると、第45番札所岩屋寺(いわやじ15:40-16:10)の裏門に出る。この途中真っ赤な閻魔大王の大きな像や、石仏がズット並んでいてまるで別世界を歩いているような錯覚に陥る。

山岳修験道のこの岩屋寺は大きな岩にへばり付いている様に建っている。絶壁の岩の途中(地上5M位か?)に大きな穴が開けられ、その中で女のお坊さんが修行をしていたと言う。

今まで見てきた寺の中で一番特徴のある印象的な寺であった。車での遍路さんや若い観光客も下から一生懸命に坂を上ってくる。



私たちは長い石段を下り、やっと県道に出る。しかし、その手前に遍路道の入り口があり、その指示に従って川沿いの道を歩くと、木が覆いかぶさり、湿った非常に歩きにくい道である。道のりの半分くらいを歩いてから歩きやすい県道の方に出て、国民宿舎の古岩屋荘に着く(17:05)。

今日は約10時間の行動で浜上氏も最後は苦しそうだった。ただ、陽射しは弱く、蒸し暑かったがまずまずの天候であった。温泉に入り、札幌の宮木氏と共に夕食を囲み、話がつきなかった。

サッカーのワールドカップ日本戦が今夜かと思っていたら明日とのこと、勘違いをしていた。明日も長い上りがあり、長丁場になりそうだ。

11. 第10日目＝6月12日【月】 曇りのち晴れ 歩行距離＝28.5km

朝5時過ぎに大きな地震(震度5)があり目が覚める。

しかし何事も無く静まり返っていたのですぐに寝たが、再び起きたのが6時半で7時の朝食まで急いで準備をする。今日は今迄で一番遅い出発(7:40)となる。

県道をずっとたどり、2回のゆるい峠越えもクリアして久万高原物産館「みどり」(9:20-40)まで休まなかったの、距離が伸びた(今日は休みであったが)。

昨日のコンビニ(9:50-10:00)で昼飯のオニギリとパンを用意し、三坂峠までの長い長い上りにかかる。一部遍路道もあったが、ずっとトラックの多い車道を進む。

途中で、喫茶店を見つけコーヒータイムを楽しむ(10:45-11:10)。更に登り続けると高原状になった三坂峠に着く。

峠の広場の手前に遍路道があり、景色の良い涼しい風の吹き抜ける静かな場所で昼食をとる(12:15-50)。ここで、今朝4時に起きて、朝食前に岩屋寺を参拝してきた宮木氏が追いついてきた(宿まで一緒に歩く)。

下りの遍路道は昔からの峠道で、傾斜も最初は急であったが、すぐにゆるやかになり歩きやすい。雑木林を抜けると、見事な棚田がずっと続く。田植えを終えたばかりの稲が風に揺れていた。

農家が点在してくると里も近い。弘法大師の網掛け石(14:00)を見て、舗装された道に出る。脚も疲れてきた頃、宿の長珍屋に着く(14:40-50)。

この宿のすぐ前に第46番札所浄瑠璃寺(じょうるりじ 14:55-15:15)があり、更に0.9kmで第47番札所八坂寺(やさかじ 15:30-50)である。

空身で2つの寺を往復する。両寺とも団体遍路が多く、読経の声が森にこだましていた。

宿に戻り(16:05)、いつものように洗濯・風呂を済ませ、6時から夕食となる。この宿は旅館と民宿を兼ねていて、評判通りの親切な、設備の良い宿であった。

夜中にはWカップ・日本＝オーストラリア戦をテレビで見る。残念な結果に終わり、すぐに寝た。しかし明日の帰宅を前に非常に寂しい感じでなかなか寝付かれなかった。

昼間青木先輩からのメールで、『明日の行程を51番石手寺までではなく、更に52・53番まで打っておくと、次のスタートが楽である』との、アドバイスが入った。時間があれば松山城なども見たいのだが……。



12. 第1日目＝6月13日【火】 晴れ 歩行距離＝25.7km

いよいよ今回の遍路も最終日となる。今日も暑くなりそうだが、53番札所まで頑張っていく事にする。かなりきつそうだが、最後に道後温泉が待っているのだ。

6時の朝食後、昨日の仲間より一足早く出発する(6:35)。昨日既に打った47番八坂寺を左に見て、48番に近そうな道を急ぐ。

5.3^{km}の道を1時間で第48番札所西林寺(さいりんじ7:30-47)に着く。

ここまでは松山市の郊外の町並みで、農家と民家の入り混じった中を歩く。田んぼが広がっている中に立派な山門を構えたこの寺があり、近所の人がお参りに来ているだけで、非常に静かである。早々と納経を済ませ、次に進む。

次第に街の中に入っていくと、弘法大師が1,200年前に発見したと伝わる「鷹の子温泉」の脇を通り、伊予鉄の線路を渡ると、山を背にした第49番札所浄土寺(じょうどじ8:25-50)に着く。

この寺は、空也上人のゆかりの寺で、正岡子規の句碑も立っている。ここで川崎から来ている若い自転車遍路に出会う(50番・51番でも会った)。話してみるとなかなかの好青年であった。

次は1.7^{km}と平坦な道を行くはずであったが、県道を1本早く曲がってしまったため、2つの大きなため池の間を遠回りしてしまった。

東の山裾に大きな薨が見える。立派な山門を構えた第50番札所繁多寺(はんたじ9:15-30)は広い境内を持ち、自然に溶け込んだ公園の中にあるようなお寺である。

いよいよ松山市内も近くなり、住宅街の中を抜けていく。坂道もあり暑くなってきたので、道端に腰掛けてジュースを飲んで休んでいた。

するとそこに、買い物にでも行くらしいおばあさんが『暑いので飲み物でも買いなさい。』と200円のお接待をされ、更に『これは3時のおやつ分だよ』と再び200円を渡された。

2回目はさすがにお断りしたものの、断りきれずにありがたく頂戴したが、感謝・感謝の連続であった。再び県道に出て街も賑やかになると、石手川の橋を渡り、石手寺の門前が見えてくる。

日本初のお遍路「衛門三郎」ゆかりの第51番札所石手寺(いしてじ10:05-40)は、土産物店の並んだ回廊形式の参道を持ち、団体遍路や観光客も多く、今迄で一番賑やかな寺である。

境内には大きな三重塔が建ち、数々の文化財があるという。そんな中でお参りをされていて、お線香とローソクを入れるケースを本堂の前に置き忘れたのを、大師堂で気がついた。



すぐに戻ったがそのケースは既に無かった。丁度川崎の自転車遍路の若者も探してくれたり、近くの人や納経所で聞いたが、結局解からず残念な思いばかりが残った。

ケースの損失ではなく、神聖な場所でのその行為に対しての憤りであった。それでも『ここは観光地なのだ』と気を取り直して先を急ぐ。

裏道を通らずに県道を道後温泉に向かうと、次第に温泉街の雰囲気になる。ホテルや旅館・土産物店が並ぶ中に道後温泉本館がある。

ここは楽しみを今日の帰りに残しておこうと、気を入れ直して先に進む。天気も良すぎて非常に蒸し暑く、ここから先がまだ12℃以上ある。

松山市内を西に進み、愛媛大学や松山大学の前を通り、市内電車の線路を渡る。丁度ビルの1階にきれいな喫茶店があったので、そこで休む(11:40-12:10)。

吹き出た汗をぬぐい、しばらく近所の商店主らしき常連の人達と遍路について談笑する。案外地元の人達も近くの寺には行くが、遍路には行っていないようだ。

市内を3℃北に抜け、更に田園地帯を4℃西に向かう。大きな「一の門」をくぐり、大木の生い茂った長い参道を上り詰め「二の門」、長い急な階段を上ると「三の門」と、570Mの坂を上ると、第52番札所太山寺(たいさんじ 13:50-14:25)に着く。

山全体がこの寺の境内のようで、非常に大きなお寺である。古い風格のある本堂と鐘楼など国宝級のものが多いらしい。

いよいよ今回の最後のお寺まで2.6℃を頑張ろう。

山門に戻り、伊予和気駅の方向に最後の力を振り絞る。駅近くにある寺で、先に駅に行き、松山行きの列車の時刻を確認すると、丁度次の列車まで約40分ある。この駅から5分ほどで第53番札所円明寺(えんみょうじ 14:55-15:25)に着く。

この寺は小さな町の中に、こじんまりと、そしてひっそりと建っていた。今回の最後の参拝を、心を込めて行う。

列車の時刻に合わせて駅に戻る(15:30-38)。この無人駅で松山行きの2両の列車に久しぶりに乗るが、今回の予定通りの行程がクリアーでき、前回の事も思い出しながら、やり遂げた満足感で一杯であった。

松山駅に着き(15:48-15:55)、駅前から市電に乗り、松山市街を眺めながら、松山城の下を通り、道後温泉の建物の前に出る。

ここでは入浴コースによって料金が異なる(400円～1500円)。そこで800円を払い、『神の湯二階席』のコースを申し込む。

2階の広い休憩室から階下の「神の湯」に下り、長い間多くの人に親しまれた、あこがれの温泉に入る。



青磁色をした滑らかな感触の湯に浸りながら、暑く、楽しかった11日間を思い出していた。さっぱりして浴衣姿で2階に戻ると、お菓子付のお茶が振舞われる。

しばらくくつろいでいると、湯からあがって来た浴衣が似合う美人が隣に座った。

話しかけると、東京の学生で「愛媛テレビ」のアナウンサーに就職受験に来たとの事で、笑顔が可愛い。お遍路の事は良く知らないらしいので、概略など説明してあげる。

道後温泉を出て、バスの時間がまだあるので、すぐ隣にある地ビール館に入る。乾いたのを潤していると、先輩の青木さんからメールが入る。



『ご苦労さん！風呂屋を出てすぐ右側にビールを飲む店があるよ。・・・』との事で、苦笑いしながら、こまやかな心遣いに感謝の気持ちを感じる。

道後温泉駅から定刻(19:20) にバスに乗り、翌朝7時(6月14日) に新宿駅に帰り着く。

今回は、前回の反省を踏まえ、①1日の歩く距離、②足のテーピング、③暑さ対策、に充分考慮をした。

その結果は充分満足できるものであり、ほぼ計画通り毎日スムーズに終わり、また多くの人達との出会いや交流もあり感謝したい。しかし、毎日暑くて歩く距離が伸びず、宿の予約の変更も多かった。夏の歩き遍路はあまりお勧め出来ない。

次回は、11月後半の予定であるが、無事『結願』出来るよう周到に準備を進めていきたい。